

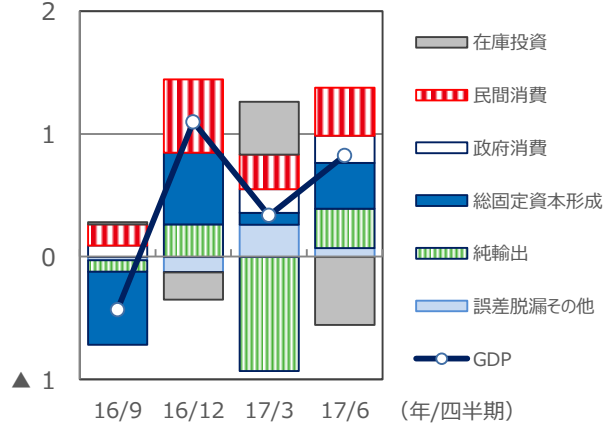
**今日のトピック 豪州のGDP成長率（2017年4-6月期）**

**成長率は再加速、豪ドルは底堅い展開へ**

**ポイント1 成長率は再加速  
サイクロンの影響が一巡**

- 2017年4-6月期の豪州の実質GDP成長率は、前期比+0.8%でした。ブルームバーグ集計による市場予想の平均である同+0.9%とほぼ同じ結果となり、前期の同+0.3%からは加速しました。
- 在庫投資が大幅減となったものの、民間消費が順調に拡大したうえ、1-3月期に落ち込んだ住宅投資と機械設備投資が、サイクロンの影響一巡、資源価格の持ち直し等から拡大に転換したためです。

(%) 【実質GDPと需要項目別の寄与度】



**ポイント2 +3%成長に向け加速へ  
個人消費が引き続きけん引役**

- 企業景況感が上昇傾向にあること等から、雇用は今後も増勢を維持する可能性が高く、民間消費も引き続き拡大が見込まれます。加えて、資源価格の持ち直し等により、資源セクターの設備投資調整も一巡すると予想されます。
- 17年の年間成長率は+2%台前半、続く18年は+3%程度となりそうです。中期的には政府によるインフラ（社会資本）投資の拡大が、景気の下支え役になると予想されます。

- (注1) データは2016年7-9月期～2017年4-6月期。総固定資本形成 = 設備投資 + 住宅投資。純輸出 = 輸出 - 輸入。  
 (注2) 実質GDPは前期比。需要項目はGDP成長率に対する寄与度。  
 (出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと日豪金利差】



- (注1) データは2015年1月2日～2017年9月6日。2017年9月6日は日本時間13時時点のレート。  
 (注2) 金利差は豪州 - 日本。金利はともに3年国債利回り。  
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ**

- 4-6月期のGDP成長率は、ほぼ市場の予想通りだったため、為替市場への影響は軽微でした。
- 中期的には、①資源価格が持ち直してきた、②それにより豪州経済の成長率加速、国際収支の改善等が見込まれる、③日銀の緩和姿勢に対し、豪州準備銀行は中立維持の姿勢を継続すると予想される等から、今後、豪ドルの対円相場は底堅く推移する見込みです。

**ここもチェック! 2017年9月 5日 豪州の金融政策は引き続き据え置き（2017年9月）  
2017年8月29日 改善が進む豪州経済**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。